

ほっとするまち ありがとうが響き合う 清水西

清水西公民館

1 清水西地区の概要

清水西地区は、清水西小学校区の16集落で構成されている。比較的市街地に近い中山間地で、平成4年から山内地区と大森地区で志津が丘住宅地の造成が始まった。地区内の賀茂神社には、睦月神事、葵祭り、祇園祭りが伝えられている。特に、睦月神事は、鎌倉時代から引き継がれてきた田楽能舞で、昭和53年に国の重要無形民俗文化財に指定された。古来、睦月神事は各集落が持ち回りで行ってきたが、多額の費用や多くの子どもの参加を必要とするため、現在は大森町が4年に一度執り行っている。睦月神事は、旧正月の2月14日に行われてきたが、近年はすぐ後の日曜日に行われている。次回は、来年2月17日に行われる。新年にあたって天下泰平、国家安穩、五穀豊穡を神に祈願するものである。

歴史をひもとくと、越知山を開山した泰澄が、農耕治水を指導したという話がいくつかの集落に伝わっている。また、滝波町には源義経に関する伝承が、山内町には後醍醐天皇の護良親王が滞在したという伝承が、城山には平家方の齊藤実盛、実員兄弟が山城を築いたという伝承が残っている。

平成30年9月1日現在、人口は2,994人、世帯数は976戸となっている。

2 清水西地区を活性化する青年グループの活動

清水西公民館が完成した平成21年に、今後の公民館活動をどのように進めていくべきかについて、若者を集めて話し合いを行った。話し合いの結果、子どもが活躍できる活動を多く行おうということになった。そのためには、若者はどのように公民館活動に関わりを持って行くかという話し合いも行われ、青年グループ「しみず西遊輝」が発足した。グループ名は、地区名の「西」と「遊んで楽しみながらまちを輝かせたい」との願いを込めてつけた。「しみず西遊輝」のメンバーは、「今後は、三世代間交流を進めて、地区住民が互いに親しみを持てるようなまちづくりを進めたい」と意欲を燃やしている。

(1) しみず西遊輝が企画する「親子Deキャンプ」

自然体験活動を通して親子の絆を深めてもらう「親子Deキャンプ」は、6月9日から10日の1泊2日で行われた。メンバーは、10数回の企画会議を開き、参加した子どもが活躍でき、楽しい思い出が作れるように準備した。会場はSSTらんどで、親子30組としみず西遊輝メンバーが15名参加した。



〈1日目の内容〉

①開校式 ②テント設営 ③パン作り ④火おこしとパン焼き ⑤クイズとオリエンテーリング ⑥バーベキューの夕食 ⑦五右衛門風呂で入浴 ⑧キャンプファイヤー ⑨一日のふり取り

〈2日目の内容〉

①バイキングの朝食 ②鮎のつかみ取り ③鮎の串打ちと焼き ④羽釜で炊飯 ⑤おにぎりとおにぎりと鮎の塩焼きの昼食 ⑥閉校式

参加した子どもは、「テントを立てたのははじめて。金具に角度をつけて打つのが難しかったけど、楽しい」「鮎に串を刺して焼くのがとても楽しかった」と笑顔で話していた。

また、直径 1.5mほどの釜で五右衛門風呂入浴も体験した。「みんなとお風呂に入って楽しかった」「星空がきれいで、露天風呂のようだった」という感想があった。

(2) しみず西遊輝の他の取組

①公民館が進める城山登山道づくりに参加し、雑木を伐採し、えちぜん鉄道から譲り受けた枕木で階段を設置する②公民館ライトアップ事業として、11月にイルミネーションを設置する③毎年3月第1日曜日に行われるそば打ち体験の企画運営を行う④公民館まつりや志津の里まつりでボランティアを行う。

3 第一線を退いた男性グループの活動

「ものづくり匠や」と呼ばれる、第一線を退いた60代から80代の男性グループに、公民館が石窯づくりを依頼した。その目的は3つあり、1つ目は、地産地消事業を進めるために、屋外に石窯を設置すること、2つ目は、第一線を退いた男性が活躍できる場を確保すること、3つ目は、山が荒れてきているので、雑木を伐採し薪として活用し、山を再生することである。平成26年4月から公民館駐車場で高さ約2mの石窯づくりに取り組んだ。4～6年生児童が建設現場を見学を訪れ、こてを使ってレンガを積み上げていく姿がまぶしく見えたのか、「匠やの人たちはかっこよかった。またいろいろなことを教えてほしい」と笑顔で話していた。

他にも、公民館の依頼で、乳児から大人までが使える木のいすづくり、地区内にある独居世帯の家屋の修繕や解体作業、瓦のふき替え作業、石窯を使ったジビエ料理などを請け負っている。また、子どもたちとの交流も続けており、「ものづくり匠や」のメンバーは、「退職した我々が外に出るいい機会にもなっている。過疎化が進む中で修理のような仕事はニーズがあると思うので、地域社会に貢献していきたい」と話している。

4 英語に親しむ活動

海外での生活経験があり、英語の塾を営んでいる女性を講師に依頼して、英語に親しみ楽しむ活動を行っている。0才からの乳児と母親を対象にした「えいごといっしょ」と、4年生から6年生を対象にした「志津チャレンジ隊」である。楽しく英語と

ふれあっていってほしいとの願いで行っている。両方とも月に1回のペースで行われている。「えいごといっしょ」では、お母さんの英語に対する苦手意識をなくし、赤ちゃんといっしょに英語で楽しんでもらおうと取り組んでいる。また、「志津チャレンジ隊」は、英語だけを使ってパンや料理をつくり、石窯で焼き上げていくものである。

「えいごといっしょ」のお母さんは、「苦手な



英語でも、歌とリズム体操で子どもと楽しく取り組んでいる」「西地区のお母さんたちと親しくなれて、育児について相談できる」と好評である。また、「志津チャレンジ隊」の子どもは、「料理作りを通していろいろな体験ができてうれしい」「石窯料理は家ではできないので楽しい」「縦割り活動なので、小さい子のお世話ができる」という感想が寄せられている。

5 終わりに

清水西地区は、新興住宅地が増え、旧集落との人口比も半々になり、地域のつながりを深める活動の場として公民館が位置している。福井市と合併して12年が経ち、自分たちの公民館として、様々な講座や事業で、種を撒いてきたことがようやく芽を出そうとしている。これからも継続するための工夫として、人と人の絆を大切にしながら新しい視点で活動を見直していきたい。子どもたちには、自然に恵まれた資源を活用して、自ら何を学ぶのかという意欲を培い、体験活動を通して自主性を育み、大人へと成長していってほしい。そして、そのような大人が中心となって清水西地区を盛り上げ、みんなが生き甲斐を持って暮らせるすばらしいまちにしていってほしい。

館長さんと主事さんの熱い思いがあり、0才から高齢者までの方々をターゲットにした公民館事業の多さに驚かされました。「多くの方々のニーズに応えるためにはこれくらいの事業がないとダメなんです」と地区住民ファーストの考え方をもち、子どもたちが大人になっても公民館に来てほしいと語られていました。